

史跡百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡 保存活用計画の概要

百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡は渥美窯を代表する窯跡です。本計画は、本市を代表する3つの史跡について、市民をはじめ多くの人々がふるさとの誇りとして「知る・守る・伝え感じる」ために、文化財の保護と整備・活用の方向性を定めるものです。
2022年3月 田原市教育委員会

1 渥美窯と3史跡の特徴

(1) 渥美窯(渥美半島古窯跡群)の概要(本編p17)

渥美窯は平安時代の終わりから鎌倉時代にかけて操業した中世陶器の一大生産地である。田原市全域から豊橋市南西部にかけて500基以上の窯が築かれた。



図1 国宝 秋草文壺
慶應義塾大学蔵

渥美窯では碗・皿・鉢・壺・甕などの日常生活で使用する製品を生産する一方、中国製陶器を模した施釉陶器や瓦塔・瓦経・経筒外容器など制作に専門的な知識・技術を必要とする宗教関連の特殊製品も生産された。

渥美窯の価値

- 三河地方で最大の窯業地
- 伊良湖地区を除く5つの地区でほぼ同時期に開窯
- 渥美窯製品の生産に三河国の国衙、伊勢神宮の関与
- 尾張地域の常滑窯・瀬戸窯の製品に先んじて渥美窯製品は各地に流通
- 意匠・芸術性の高い刻画文の壺等の生産
- 経筒外容器・瓦経などに紀年銘、文字が刻まれた資料が多い
- 東海地方の中世窯業生産における山茶碗編年の基礎資料を提供
- 国指定史跡の窯跡が3件

(2) 百々陶器窯跡の概要(本編p31)

百々陶器窯跡は窯体の構造を知ることができる窯跡として1922(大正11)年に国指定史跡に指定された。1923年発刊の『渥美郡史』に奈良時代の窯跡として窯体の位置などが記載されている。発掘調査の実施がされていないため、詳細な窯体構造は判明していない。表採遺物の山茶碗、小皿、甕片などから付近の窯跡と同様に鎌倉時代頃に操業していたと考えられている。

(3) 大アラコ古窯跡の概要(本編p40)

1950(昭和25)年頃に平岩にある畑の耕作者が藤原顕長銘の陶片を発見し、大アラコ古窯跡周辺が注目されることになった。1955年の土地造成工事で焼成室の一部が発見され、1956年に野田史談会が窯体1基(第1号窯)の調査を実施した。1964年に小野田勝一が4基の窯跡を確認し、第2号窯と第3号窯の一部を調査した。1965年には日本考古学協会生産技術特別委員会窯業部会によって第6号窯が調査された。発掘調査以後の工事の際に確認した窯体を含めて全部で9基の窯体を確認されている。

大アラコ古窯跡からは、輪花碗・小碗・壺・甕などの他にも施釉陶器や瓦塔、藤原顕長銘短頸壺といった多種多様な遺物が出土している。これらの調査成果により1971年に国史跡に指定された。大アラコ古窯跡は、短頸壺に刻まれた藤原顕長の三河国司在任期間から窯跡の操業時期を絞ることができ、東海地方の中世陶器における山茶碗編年の定点となっている。

(4) 伊良湖東大寺瓦窯跡の概要(本編p51)

東大寺瓦の発見については江戸時代の地歴書に記載があり、古くから伊良湖御厨と東大寺の関係が推定されていた。1966(昭和41)年に初立池の工事に伴い愛知県教育委員会により発掘調査が行われた。調査では、3基の窯体と関係遺構が確認され、「東大寺大佛殿瓦」とある軒丸瓦・軒平瓦、「大佛殿」や「東」と刻印のある平瓦・丸瓦が出土した。瓦の他にも山茶碗・小皿・壺・甕・瓦経・経筒外容器・瓦塔・塼などが出土した。調査成果に基づいて1967年に国史跡に指定された。本瓦窯産の瓦類は、東大寺鐘樓の修理時や大仏殿回廊跡の発掘調査の際に出土しており、鎌倉時代の再建時に東大寺で使用されたことが確認されている。出土した山茶碗は鎌倉時代の東大寺再建年代から東海地方の中世陶器編年の定点ともなっている。

2 史跡の本質的価値

(本編p60)

百々陶器窯跡

- 窯体、灰原が良好な状態で保存されている
- 谷地形、河川など周辺地形が残る
- 愛知県の国指定史跡第1号として史跡に指定



図3 説明看板と標柱

図4 史跡の現況

大アラコ古窯跡

- 調査後に窯体が埋没保存されている
- 三河国司藤原顕長の名を刻んだ短頸壺を焼成
- 東海地方の窯業生産の定点となる窯
- 古瀬戸に先んじて施釉陶器生産を行った窯
- 生産地と供給先が特定できる窯



図5 大アラコ第3号窯
藤原顕長銘短頸壺



図6 大アラコ古窯跡
施釉陶器

伊良湖東大寺瓦窯跡

- 東大寺の鎌倉時代再建時の瓦を焼成
- 東海地方の中世陶器編年の定点となった窯
- 瓦経・瓦塔・経筒外容器など特殊な宗教製品も焼成



図7 史跡整備の現況



図8 愛知県指定文化財
伊良湖東大寺瓦窯跡出土品

3 保存活用の大綱・基本方針

【目標】(本編p82)

知る・守る・伝え感じる、
ふるさとの誇り 「渥美窯」
国指定3史跡

知る
再調査、新しい
視点からの研究
などによって史
跡の新たな価値
を知る

守る
適正な保存管
理、整備を行っ
て史跡を守る

伝え感じる
史跡の情報を地
域や学校など広
い世代に伝え、
理解してもらう

ふるさとの誇り
ふるさと学習の
要素の一つ、地
域にあるふるさ
との誇りとして
位置づける

【基本方針】

【保存管理】

史跡の本質的価値、構成要素に関する学術調査、研究の計画的な実施を進め、現状復旧する場合を含め3史跡それぞれの地形や遺構(窯体・灰原・関連遺構)などの状況や環境に応じた保存管理に取り組む。

【活用】

調査研究を推進して遺構や遺物の情報量を増やし、展示やイベント、出前講座等の内容の充実を図る。地域や学校等と連携を強めて、ふるさとの史跡に誇り・愛着をもってもらえるよう公開・活用を進める。

【整備】

3史跡の現況に応じた個別の保存管理に必要な整備(境界杭設置、説明看板等の更新等)、本質的価値を分かりやすく伝え、多様な活用に対応した整備内容を検討する。

【運営及び体制の整備】

土地所有者や地域コミュニティ、地域住民、市民団体等との連携や文化庁、愛知県、大学、有識者等との連携を充実させ、保存活用事業の推進体制の構築に取り組む。

4 保存活用の方向性

(本編p84)

百々陶器窯跡

- | | |
|------|---|
| 保存管理 | ・ 史跡指定範囲の明示、仮杭の設置
・ 確認調査などの実施、指定範囲の見直し
・ 豪雨等の自然災害への対策 など |
| 活用 | ・ 既存情報や確認調査結果を普及啓発に活かす
・ 表採遺物や今後の出土遺物を展示等に活かす
・ 周辺施設との連携について検討する など |
| 整備 | ・ 調査結果に基づいて史跡保存の整備を検討
・ 調査結果に基づく説明看板の内容の更新
・ 案内看板の内容の充実 など |

大アラコ古窯跡

- | | |
|------|---|
| 保存管理 | ・ 地形改変の確認を含む確認調査の実施
・ 保存管理のため必要な範囲の公有地化の検討
・ 指定地内の道路や構造物の整備検討 など |
| 活用 | ・ 田原市博物館等の展示内容や普及啓発の充実
・ 藤原顕長銘短頸壺など出土遺物の一層の活用
・ サンテパルクたはら等との連携 など |
| 整備 | ・ 確認調査、発掘調査を実施し、整備内容を検討
・ 公有地化や地形の復旧方法の検討
・ 説明看板や案内看板等の内容の充実 など |

伊良湖東大寺瓦窯跡

- | | |
|------|---|
| 保存管理 | ・ 正式な境界杭の設置、柵の維持保全
・ 史跡として整備された現状の維持
・ 研究成果に基づく説明看板等の更新 など |
| 活用 | ・ 渥美郷土資料館、田原市博物館等の展示の充実
・ 伊良湖東大寺瓦窯跡出土品の一層の活用
・ 初立池公園や皿焼古窯館との連携 など |
| 整備 | ・ 他の史跡と統一感のある整備内容の検討
・ 説明看板の内容の充実
・ 案内看板の内容充実、初立池公園との連携 など |

5 運営及び体制の整備の方向性

(本編p102)

- 保存活用事業の運営体制(人員・組織)、仕組みの充実
- 庁内の連携・情報共有の仕組みの構築
- 他の機関・組織等との連携・情報共有の体制の構築



図2 渥美窯の分布図 『愛知県史』を元に加筆・修正